

幼児期の自然体験活動プログラムをはじめましょう！

わくわく キラキラ  
いーっばい！！

自然は宝物

幼児向けプログラムの  
実践と方法



独立行政法人

国立青少年教育振興機構



わくわく キラキラ  
いーっぱい!!



# 幼児教育における 自然体験活動の意義

## はじめに

アメリカのベストセラー作家であり、海洋生物学者であったレイチェル・カーソンは、晩年に幼い甥のロジャーと森や海岸に何度となく出かけました。自然の不思議さや美しさをロジャーとともに体感し、著「センス・オブ・ワンダー」を記しました。その中で彼女は、子どもにとって知識は感性という土壌の上に育まるとし、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じていると述べています。

「幼い子どもたちに多くの学びの機会を提供してくれる自然体験活動事業が全国に普及してほしい」という願いをもって、このリーフレットを作成しました。幼児を対象とした自然体験プログラム、運営のノウハウ、指導上の留意点、青少年教育施設の実践事例等を紹介しています。幼児期の自然体験活動の裾野を広げるプログラム開発、事業実践に役立てていただければ幸いです。

特別事業  
「幼児期にふさわしい体験活動プログラムの発信・活用について」  
企画委員会 一同



## 幼稚園教育要領

## 保育所保育指針

## 幼保連携型認定 子ども園教育・ 保育要領

## 目次 Contents

- 1 はじめに
- 2 幼児教育における自然体験活動の意義
- 3-4 子どもの成長にとって  
“いいこといーっぱい”の自然体験活動
- 5-6 幼児キャンプ  
幼児だけのストーリーキャンプ  
～国立山青少年自然の家～
- 7-8 自然の中でたくさん遊ぶ日帰りプログラム  
～富山県砺波青少年自然の家～
- 9-10 幼小キャンプ  
幼児と小学1・2年生と一緒にテント宿泊  
～国立能登青少年交流の家～
- 11-12 幼児の自然体験プログラム  
～石川県立鹿島少年自然の家～
- 13-14 親子で楽しく！森のたんけん隊！  
～国立妙高青少年自然の家～
- 15-16 公立施設で行った  
「自然体験活動」の活用例  
～新潟県立こども自然王国～
- 17 自然体験活動における  
「運営」・「安全管理」・「準備物」について
- 18 Q&A

「乳幼児期において自然の持つ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼（園）児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われる」と記されています。また、保育所保育指針には、「自然との触れ合いにより、子どもの豊かな感性や認識力、思考力および表現力が培われる」と記されています。

これらのことから、現代の幼児教育においては、自然体験活動が重要な教育的意義をもっていることがわかります。



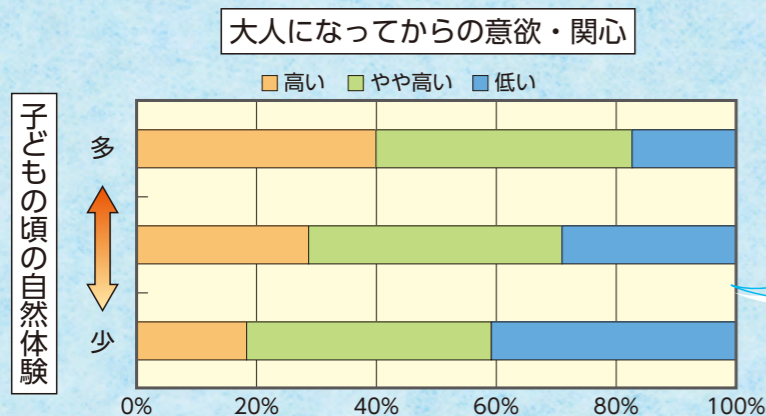
# 子どもの成長にとって “いいこといっぱい”の 自然体験活動



## 1 やる気や生きがいをもった大人になる子どもが多い！

大人を対象に現在の意欲・関心と子どもの頃の自然体験の多さを調査した結果から、子どもの頃の自然体験が多いほど大人になってからの意欲・関心が高い傾向にあります。

【子どもの頃の「自然体験」と大人になってからの「意欲・関心」との関係】

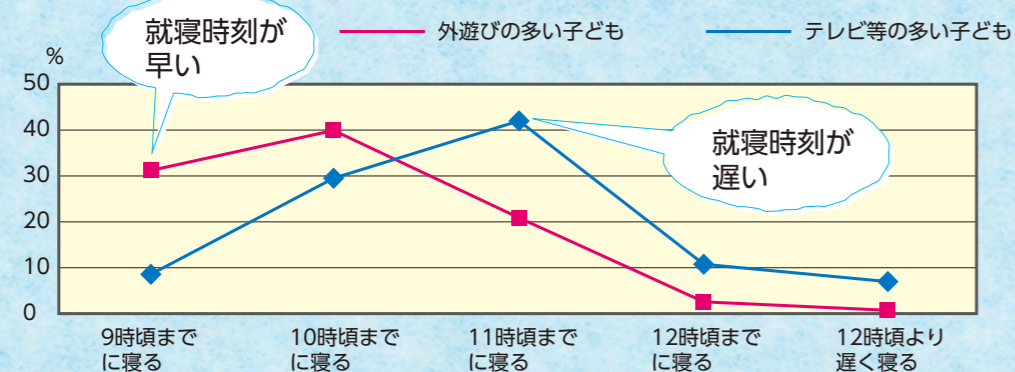


子どもの頃の体験が豊富な人ほど「規範意識」や「自尊感情」も高く、やる気や生きがいを持っている人が多いことが分かっています。

出典：独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告（平成22年）

## 2 外遊びは子どもの成長にいいことがいっぱい！

【遊びの内容と就寝時刻との関係】



外で遊ぶ

たくさん食べる

ぐっすり寝る

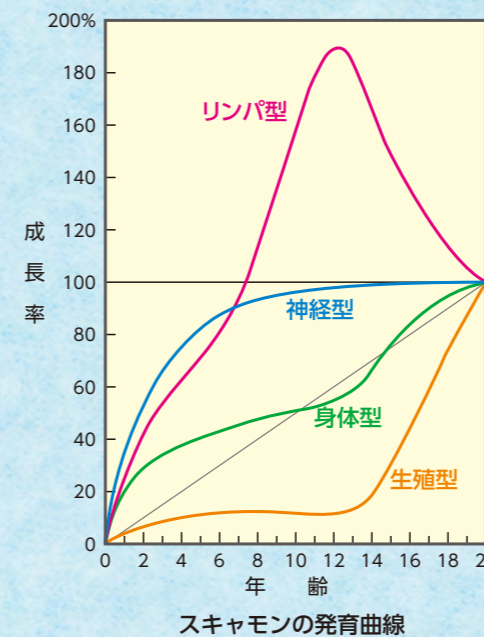


## 3 多種多様な動きをすることで、脳や神経系の発達に好影響が！

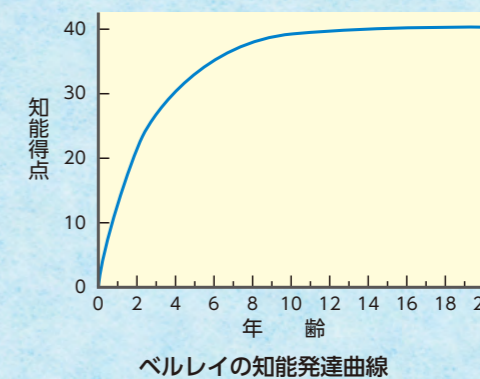
「2001世界子ども白書（ユニセフ）」において、

“こどもが3歳になるまでに、脳の発達がほぼ完了する。”と記されています。

また、平成21年に文部科学省初等中等教育局幼児教育課が行った「今後の幼児教育の振興方策に関する研究大会（第8回）」で配布された資料「幼児教育の無償化の論点」においても幼児教育の重要性について紹介されています。



スカモンの発育曲線（神経型）とベルレイの知能発達曲線が酷似していることから、乳幼児期における教育や多様な体験活動が大切なことがよくわかるね。



さらに！

「豊かな人間性」の形成に重要な“前頭連合野”を正常に発達させるには...

自然の中での刺激から諸器官を発達させる。

多様な刺激と豊かな社会関係が重要

集団生活によって、社会性が身に付く。

新しい発見や挑戦から、好奇心や探究心が生まれる。

いわゆる“キレやすい”子になりにくい。

出典：林野庁北海道森林管理局石狩地域森林環境保全ふれあいセンター「もりのなかでこどもはかやく」～乳児～幼児のための森林環境教育ガイドブック～（平成13年）



# 幼児だけのストーリーキャンプ



やんちゃキッズの大冒険 秋!!  
～自然の中へGo!レンジャー～  
国立立山青少年自然の家

## 1. 活動日程

	午前	午後	夜
1日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はじめのつどい</li> <li>●班タイム (アイスブレイク)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森の探検・沢登り</li> <li>●夕食準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就寝準備 (シラフ準備)</li> <li>●絵本タイム</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;広間泊&gt;</p>
2日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝の体操</li> <li>●朝食作り (カートンドック)</li> <li>●ゲームに挑戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昼食作り (おにぎり、デザート)</li> <li>●班タイム</li> <li>●終わりのつどい</li> </ul>	

## 2. 活動の様子

**しぜんレンジャー**

みんなで秋を見つけよう!

**げんきレンジャー**

元気を満タンにしよう!

**がんばりレンジャー**

いろいろな挑戦しよう!

**なかよしレンジャー**

ゲームを楽しもう!

**しっかりレンジャー**

自分でやってみよう!

5つのミッションに挑戦だ～  
～んしん  
トオ～!

5つのミッションをクリアしたら  
レンジャーペンダント  
かんせい!

## 3. 事業の概要

- ねらい 幼児が親元を離れて、様々な生活体験や自然体験に取り組むことで、意欲的に物事に取り組む積極性やよりよい人間関係を作り上げる能力を育むことを目指す。
- 広報活動
  - ・富山県内の全保育所(園)・幼稚園・認定こども園、約380団体に20部ずつ開催要項を郵送
  - ・国立立山青少年自然の家ホームページ、facebookに開催要項を掲載 (URL: <http://tateyama.niye.go.jp>)
- 参加者数 48名 (応募者数は115名)
- スタッフ数 職員5名 ボランティア12名 合計17名
- 予算
  - 参加費 一人2,500円 (宿泊費、食事代、教材費、保険料など)
  - 事業費 約150,000円 (広報費、ボランティア旅費、消耗品など)
  - ※事業費のほとんどは、広報費とボランティア旅費です。工夫によっては、大幅に削減できると考えられます。

## 4. 子どものこんな成長が!! (保護者アンケートから)

お手伝いをするようになりました!

体を使って遊ぶことが増えました!

自信をもって挑戦するようになりました!

## 5. 事業のポイント

- 保護者からは、「幼児対象のキャンプがなかなかなくて、このキャンプに参加できてよかった。」という声をよく聞きます。参加希望者はたくさんいらっしゃいます。
- 「Go!レンジャーになろう」と子どもたちに投げかけ、食事の準備や寝床作りなど生活に根ざした活動をレンジャーミッションとして提示しています。子どもの自立心を育むよう工夫しています。
- 一つ一つの活動が、時間がかかるものと思い、ゆったりと生活が出来るように計画する事が大切です。せかすのではなく、子どもがやり遂げるまでゆっくりと待てるように全体の計画を立てています。



# 自然の中でたくさん遊ぶ日帰りプログラム

レッツゴー！  
トミーの森たんけんたい  
富山県砺波青少年自然の家



## 1. 活動日程

午前	午後
<ul style="list-style-type: none"> <li>●はじめのお話（自然の話、転び方の練習）</li> <li>●森の探検</li> <li>●昼食・休憩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●虫探し・水中生物観察</li> <li>●終わりのお話（今日頑張ったこと）</li> </ul>

↑ 国立立山青少年自然の家が実施している「立少トントンたんけん隊」をモデルに計画

### 「立少トントンたんけん隊」活動内容

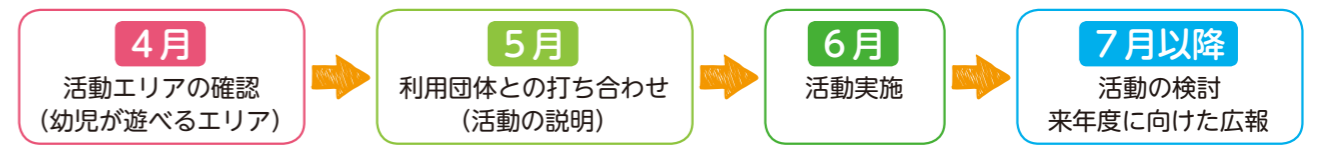
午前	午後
<ul style="list-style-type: none"> <li>●はじめのお話（自然の話、転び方の練習）</li> <li>●森の探検</li> <li>●昼食・休憩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前谷の沢登り</li> <li>●終わりのお話（今日頑張ったこと）</li> </ul>

## 2. 活動の様子



## 3. 事業の概要

- ねらい 自然体験を通して、意欲的に物事に取り組む姿勢や人間関係能力を養うとともに、自然が大好きな子どもに育てる機会とする。
- モデル園 社会福祉法人『東般若保育園』年長児25名 引率教諭3名
- 指導者 富山県砺波青少年自然の家 職員1名
- 費用 食事代430円（幼児）520円（引率教諭）施設利用料90円（引率教諭）
- 活動までの準備



### 指導者の声（富山県砺波青少年自然の家 西田 誠）

計画提案当初、安全面に不安がありました。1人で指導をするということもあり、活動コース内の危険箇所を挙げ、それに対する安全の配慮や対処、事故があった場合の対処方法をどうするかという点をよく考えました。活動中は子どもたちも意欲的に取り組む姿勢も見られ、よい体験をさせてあげられたと感じています。午後の活動の虫探しでは、今回は虫を捕まえて持って帰れるという提示をしましたが、多くの団体の利用があった場合は取れなくなる可能性があるため、プログラムを継続する上での改善点です。今後の広報活動としては、自然散策や自然観察のよさや楽しさをPRして、利用団体に理解してもらえるようにすることが必要であると考えています。

## 4. 活動のいろいろ

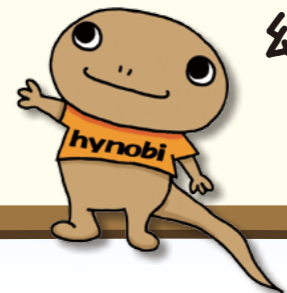


## 5. 事業のポイント

- ①活動プログラムは簡単に！  
例えば、「森の中を歩く」という活動だけでも幼児にとっては十分です。木や草などがある場所では、子どもたちは自由に遊びを考え、遊びが発展していきます。施設でできること、活動エリアを確認して使える場所を探すことから始めましょう。お昼ご飯は、幼児用の特別メニューで提供し、子どもたちは食事を楽しみました。
- ②安全管理は徹底する  
活動エリアが決まったら、場所の安全について考えましょう。何か危険なことはないか、またこうしたら防げるのではないかと予測をしましょう。また、施設内で幼児に向けてできることを考えましょう。
- ③幼児が頑張る姿を大事にしましょう。  
子どもたちに、「転ぶことはダメ」ではなく、転んだら「自分の力で起きあがる」。「泣いたらダメ」ではなく、「泣きながらでも頑張る」ということを伝えてあげてほしいと思います。そのために、活動前学習での指導や、活動中の子どもへの言葉掛けを意識しましょう。



# 幼児と小学1・2年生と一緒にテント宿泊



幼小いっしょに！  
のとまり会  
国立能登青少年交流の家

## 1. 第1回 活動日程 (日帰り)

### かかわりを生むステージ

	午前		午後
子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はじめの会</li> <li>●フードハントゲーム</li> </ul>	親子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昼食</li> <li>●ホットケーキ作り</li> <li>●終わりの会</li> </ul>
大人	<ul style="list-style-type: none"> <li>●トークセッション</li> </ul>		

## 第2回 活動日程 (宿泊)

### かかわりを深めるステージ

	午前	午後	夜
1日目		<ul style="list-style-type: none"> <li>●はじめの会・テント準備</li> <li>●砂浜で砂遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入浴</li> <li>●絵本タイム &lt;テント泊&gt;</li> </ul>
2日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テント片付け</li> <li>●フィールドビンゴ</li> <li>●カートンドック作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会食 (親と一緒に)</li> <li>●終わりの会</li> </ul>	

## 2. 活動の様子

### 第1回



探検だ～！

子どもだけで



こんな悩みがあるんです

大人だけで



ホットケーキ作れたよ。お母さん食べてね。

親子で

### 第2回



テント立て



どんな砂像をつくらうかな



絵本の読み聞かせ中



テントのお片づけ



カートンドック作り



回に入りきれないよ～

## 3. 事業の概要

- ねらい 幼児と小学生が日帰り・宿泊プログラムの2回に渡って共に生活し、体験活動を通して、人やものとかかわる力や決まりを守って生活しようとする態度を養うことをねらいとしている。また、日帰りプログラムでは、保護者が子育てについての講演を聴いたり、親同士で話し合ったりする機会を設けることで、今後の子育てに役立ててもらう。
- 広報活動
  - ・石川県 (近隣9市町) と富山県氷見市の保育所(園)・幼稚園・認定こども園、小学校に人数分チラシを配布
  - ・国立能登青少年交流の家ホームページにチラシを掲載 (URL: <http://noto.niye.go.jp>)
- 日程 2回プログラムを設けている。
  - ・第1回は子どもと大人それぞれ別のプログラムを用意している。
  - ・第2回は2日目の会食以外子どものみのプログラム。
- 参加者数 75名/幼児20名、小学1・2年生20名 計40名 (応募者数75名) ※第1・2回両日参加
- スタッフ数 職員3名、ボランティア16名 (2回総合計) 合計19名
- 予算
  - 参加費 第1回 子ども一人1,200円【日帰り】、大人一人1,200円【日帰り】  
第2回 子ども一人2,000円【宿泊】、大人一人 400円【日帰り】
  - 事業費 約130,000円 (広報費、ボランティア旅費、消耗品など)
  - ※事業費のほとんどは、広報費とボランティア旅費です。



## 4. 事業のポイント

### <トークセッションについて>

#### 親同士が思いを共有する場の提供

トークセッションは、講師の先生をお招きし、子育ての悩みを共有しながら、和やかな雰囲気が進みました。保護者が悩みを聞いてもらう機会には需要があり、ぜひ参加したいという方がたくさんいることがわかりました。実際に参加した人は、「子どもと離れて大人同士で活動する時間があるのがうれしい。子どものいいところを発表する機会は、なかなかないのでとてもよかった。」「時間がもっと欲しい。」など、トークセッションに満足しているようでした。このような場を提供できる施設が増えるといいと思います。



### <終わりの会について>

#### 子どもの様子を発信する時間の設定

幼児や小学校低学年の児童が親を離れて宿泊することは、子どもにとって貴重な経験です。親にとっては、そのような機会を通して子どもに成長してほしいと願う反面、不安もあるはず。そのようなことを解消するために、終わりの会では、子どもたちが感想を発表したり、活動中の写真をスライドショーで紹介したりしました。そうすることで、保護者は子どもの成長を感じ、子どもの話に耳を傾けるきっかけになると思います。





# 幼児の自然体験プログラム

～かしまの森たんけん隊～  
石川県立鹿島少年自然の家

## 1. 活動日程

	午前	午後
日帰り	*施設のバスで送迎 ○はじめのつどい ○かしまの森たんけん	○昼食 ○エコバック作り・クラフト作り ○おわりのつどい

## 2. 活動の様子

### 森たんけん



クラフトの材料ゲット♪



どんぐりみつけたよ



向こう側まで行けるかな？



木のぶらんこだ



雨が降ってきたよ～



### クラフト活動



エコバックづくりで葉っぱのスタンプ



どんぐりで写真立てをつくったよ



葉っぱのお皿に木の実がいっぱい

## 3. 事業の概要

- ねらい 幼児が森の中を歩いて自然に触れ合うことで、自然に興味を持ち、自然の楽しさを感じる機会とする。また、たくさん歩くことによって体力づくりをする。
- 広報活動
  - ・石川県中能登保育所(園)・幼稚園、約10団体に直接広報
  - ・石川県羽咋市園長所長会に参加し、広報。
- 参加者数 22名(邑知保育園年長児)、保育園職員4名
- スタッフ数 職員2名
- 予算 参加費 1人 480円(食事代)



### 指導者の声(鹿島少年自然の家 職員)

鹿島のフィールドで幼児が楽しく遊べるのか不安でしたが、小学校低学年を対象に実施している「秋みつけ」のような形で十分実施できることが分かりました。楽しく活動している幼児の姿を見て、うれしくなりました。幼児には、まず体を使って遊ぶこと、その中で自然を感じ取ることが大切だと実感しました。



### 園児の声

- ・いのししのふんがあったのがびっくりしたよ。
- ・もっと森の中で遊びたいと思ったよ。
- ・どんぐりと松ぼっくりで作ったクラフトを早く家の人に見せてあげたいな。
- ・今度は木登りをしてみたいな。

### 園長の声

天候には恵まれなかったけれど、園児が冷たい風や雨を感じることも貴重な体験だと思いました。園児は雨の活動でも、生き生きとしていました。自然の中でしか学べないことはたくさんあります。このような自然体験をどんどんさせていきたいです。



## 4. 事業のポイント

### ①まずは園側の意向を!

保育園や幼稚園の希望がかなうように、ねらいや日程などについて意向を聞き、相談しながらプログラムを組みましょう。自然体験には危険が伴います。そのことも伝えた上で、安全面における配慮についても事前に相談しておきましょう。

### ②プログラムは柔軟に!

決められたプログラムを必ずこなさないといけないわけではありません。幼児の好奇心に沿って、柔軟にプログラムを変更することも考えましょう。幼児が自然と向き合っている姿を大切にしましょう。

### ③雨でもできる自然体験!

雨だから活動ができないわけではありません。安全面への配慮は晴天時より注意が必要ですが、必要に応じて、雨具や長靴を身に付けて実施できます。着替えの準備をしておくといでしょう。



# 親子で楽しく！森のたんけん隊！



～幼児キャンプ2015～  
国立妙高青少年自然の家

## 1. 活動日程 (主な活動) ※夏のキャンプ

	午前	午後	夜
1日目			<ul style="list-style-type: none"> <li>●開会式</li> <li>●仲良しタイム (仲間作り、読み聞かせ)</li> <li>●テント泊 (親子で)</li> </ul>
2日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オリエンテーリング (ポイントだけでなく、森の中に隠された絵カードも見つけよう)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●竹の割りばし作り (親子で一緒に)</li> <li>●アウトドアクッキング (焼きそば作り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャンプファイヤー (キャンドルセレモニー)</li> <li>●テント泊 (子ども同士で)</li> <li>●親と保育士の語らい</li> </ul>
3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●源流探検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●閉会式 (グループで感想発表)</li> </ul>	

## 2. 活動の様子

のこぎりの使い方に気を付けて！

みんなで登ると楽しいね！

森の中は不思議なことがいっぱいだね！

悩んで、気付いて、挑戦して・・・  
泣いて、笑った自然体験の数々

風を送るといって、お父さんが教えてくれたんだ！

だいじょうぶ！よくがんばったよ。

自分だけの力で、挑戦できたよ！

## 3. 事業の概要

- ねらい 自然体験活動や集団宿泊体験を通して、自立や社会性及び基本的な生活習慣の基礎を養うとともに、保護者にとっては、子どもの活動を客観的に見つめたり保護者同士で情報交換をしたりすることで、子育て支援の一助とする。
- 広報活動
  - 新潟県上越地区 (妙高市・上越市・糸魚川市)・長野県北信地区の各幼稚園・保育園・認定こども園、新潟県各市町村教育委員会、長野県教育委員会、国立大学附属幼稚園、全国公立施設、昨年度参加者へチラシの郵送
  - ホームページへの掲載 (<http://myoko.niye.go.jp/>)
- 参加者 4・5歳児26名とその家族 (両親、兄弟可) 1都6県からの参加
- スタッフ 職員3名、市内保育士2名、ボランティア13名、妙高市教育委員会指導主事等運営協力者3名
- 費用
  - 参加費 幼児一人3,000円 保護者一人3,500円 (宿泊費、食費5回分、保険料 等)
  - 事業費 約90,000円 (ボランティア旅費5人分 約35,000円、チラシ代 約50,000円、通信費 約5,000円)
- 活動までの流れ



## 4. 参加者保護者の声 (アンケートや聞き取りより)

- サバイバルな体験にもかかわらず、スタッフの方の配慮のおかげで安心して見ていられました。
- 何事も前向きにやる子ですが、今回は泣く姿があり、今まで知らなかった自然の厳しさを体験できたと思います。
- 集合場所や時間などの変更連絡の情報 がうまくまわらない時があったので、メール等を使えばいいと思いました。
- 初日のスケジュールが少し厳しかった。
- 食事の準備や子ども同士でのお泊りなど、親が思っている以上に何でもできるのだなあと思いました。
- おもちゃも遊具も何も無い中で友だちと自然の中で思い切り遊ぶ姿を見て、「子どもは遊びの天才」と改めて感じました。
- 決まりごとなど、もう少し厳しくしてほしいと思った。

## 5. 事業のポイント

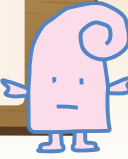
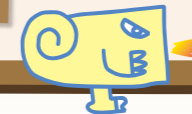
- 安全・安心は最優先とする。
- スタッフによる事前打合せや活動場所の下見は必ず行う。
- テントサイトで宿泊する場合の連絡は、人づてには誤報が伝わることもあるので、回覧板方式等、文書でしっかりとまわすと、正確に伝わります。
- 野外炊事や工作などの火や刃物を扱う活動は、親子で行うことが安全だが、オリエンテーリングや森遊びなどは、小グループをつくり、保育士等のリーダーをつけることで、子どもだけの活動として、保護者は離れたところで、子どもの自立や社会性の成長ぶりを見守ることが望ましい。
- 親と離れて寝るなどの体験をすることで、子どもが大きく成長することが期待できる。「頑張って乗り越えるチャンスがたくさんつくること」も幼児の体験活動の重要なことの一つである。



# 公立施設で行った「自然体験活動」の活用例

～ちびっ子隊くるるクラブ～

新潟県立こども自然王国



## 1. 活動日程

	事前 (当日)	午前
日帰り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●打合せ (活動場所の確認や参加者の動きの確認等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●割りばしの作り方の説明</li> <li>●材料の配布</li> <li>●親子で活動</li> <li>●作ったはしを使って流しそうめん</li> </ul>

## 2. 活動の様子



使いやすい長さのこぎりで切ろう



大人がなたを持ち、幼児が木槌で叩いて割ります。



小刀で先を細くしてみよう (利き手には、軍手をつけない)

### 親子で夢中になった割りばし作り



紙やすりで、表面をつるつるにしよう



ウッドバーニングペンで名前を書くのって難しいね。



自分で作ったはしで食べると、いつもより美味しいなあ！

## 3. 事業の概要

- ねらい 国立妙高青少年自然の家で行う自然体験活動を公立施設でも活用していくことで、より多くの幼児に自然体験活動のよさを体感させ、その後の心身の健やかな成長の一助とする。
- 参加者 ちびっ子隊くるるクラブ参加の幼児とその家族
- 参加費 子ども1,000円、大人1,500円 (体験・昼食・こども自然王国温泉入浴付)
- スタッフ 【新潟県立こども自然王国】3名 【国立妙高青少年自然の家】2名
- 準備
  - ①竹 (節の部分を片方残し15cmから20cmの竹筒にする)
  - ②工具等
    - ・のこぎり (竹を適当な長さに切る)
    - ・小刀 (はし先を細く削る)
    - ・工作板 (地面を傷つけないため)
    - ・なた (竹を割る)
    - ・木槌 (なたを叩く)
    - ・紙やすり (表面を滑らかにする)
    - ・ウッドバーニングペン 他



## 4. みんなの声

流しそうめんを使うという目的もあって、夢中で作っていました。大人も熱中しますね。

**楽しいことやできるようになったことがいっぱい**

子どもたちは、小刀を使ったことが無いので、難しいし、怖いと感じましたが、実演しながら説明してもらったので、楽しく安全にできました。

つい大人が夢中になって話し込んでしまい、子どもだけで作業する場面もちらほら…

作業が難しいと、同じ子につきっきりになるので、全体を見ながら動けるようにしたい。

**難しいこともいくつかありました。**

## 5. 事業のポイント

- 打合せは、早い段階から行き、詳細をじっくりとつめていくことが大切。
- 大きなイベントだけの大掛かりな連携の仕方ではなく、お互いの事業の見学や補助などできることから進めていくことで、「細く長く」つながっていけるようにするとよい。
- 国立施設と全く同じことを行う必要はないので、国立施設のノウハウを公立施設にあう形で取り入れていくとよい。

※当日、自然王国に研修のためにいらしていた石川県の児童館の職員の皆さんにも、国立の施設と公立の施設の連携の様子を見ていただくという意味で、割りばし作りを体験していただきました。



# 自然体験活動における 「運営」・「安全管理」・「準備物」 について



## 1 運営面で気をつけること

### (1) 募集人数

スタッフ（施設職員、ボランティア等）の人数に対して、受け入れ可能な幼児の人数を考慮することが大切です。受け入れすぎると、幼児の様子を把握しきれないなどの弊害が出てしまうことがあるので、配慮する必要があります。

### (2) 日程の組み方

幼児の行動には、どんなに準備をしても“想定外”は起こり得るものです。活動と活動の間には、休憩の時間をしっかりと入れ、余裕のある計画を組みましょう。

### (3) 事前準備

ボランティアを含めたスタッフによるミーティングは早い段階から進め、日程の組み方や活動プログラムの内容、グループ編成等を決めていきますが、活動場所については、早い段階での下見に加え、直前での確認を必ず行います。

## 2 安全管理で気をつけること

### (1) 活動内容

参加する幼児の年齢や性別、生活経験等を考慮し、実態にあった活動計画を立てる必要があります。その際、安全面に十分留意した上で達成感が味わえ成長につながる活動を計画しましょう。

### (2) 自然界の危険

自然の中には、マムシや熊、ハチやマダニ、ウルシなどの危険な動植物が身近にいます。普段から点検や除去などの対策をとり、参加者には事前にそれらの情報を伝えておきましょう。そして、活動直前にも再度確認と注意を行います。

### (3) 食物アレルギー

参加申込書により、事前にアレルギーの有無を確認しますが、活動当日は、幼児だけの食事が保護者同伴での食事かにより、対応も変わってきます。幼児だけの食事の場合は、事前に献立を保護者に確認してもらい、食べても大丈夫かどうかを決めておく必要があります。また、保護者同伴であっても、幼児だけでおかわりに行かせないようにするなどの配慮が必要です。



## 3 準備する物品について

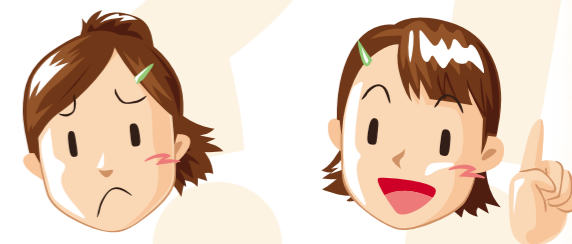
### (1) 刃物を使用する場合

なるべく、先が丸い物を用意し、幼児が安全かつ安心して活動できるよう配慮します。軍手なども、幼児の手に合ったものを用意します。また、左利き用の道具があるとどの幼児にも対応できます。

### (2) 名札を用意する場合

幼児一人一人に名札を配る場合には、首かけタイプの物は、引っかかる危険が考えられるため相応しくありません。安全ピンも木登りをする時に、体に刺さることがあるため、できれば避けたいものです。両面テープで貼り付けるなど引っかかったり刺さったりする危険の無い物を用意しましょう。

# Q & A



**Q1** 広報はどのように行えばよいでしょうか？

**A1** 各保育園・幼稚園長会議に出席して、チラシや報告書を配布する方法があります。新規で活動を始めるときは、モデルになる園・所を決めて取組み、その取組みから出た意見や反省をいかしていくことでより進んだ活動になります。他には、市町村の健康福祉や子育て支援担当課にチラシを持っていくのも効果的です。

**Q2** 特別な配慮を要する幼児の受け入れなど、個々の違いを把握し、対応するよい方法はありませんか？

**A2** 参加申込書に、「一人で寝たことはありますか?」、「服用している薬はありますか?」などの基本事項を確認するアンケートと自由記述による「要望欄」を設け、一人一人の発達段階や特徴を把握するとよいです。特に配慮を要する場合は、直接保護者から聞き取りを行うことをお勧めします。

**Q3** 幼児期における自然体験の重要性を保護者や地域に広め、園以外でも自然体験に取り組ませたいのですが、効果的な手立てはありますか？

**A3** 幼児キャンプや自然体験活動に関するチラシ等を園に配布した際に、保護者の目に付く玄関等に掲示してもらったり、授業参観等で紹介してもらったりするなど、積極的に自然体験の重要性を広めていく必要があります。「興味はあるけど、自然体験はしたことがないし・・・。」と思っている保護者が多いので、まず一度参加し、「こんなに子どもが生き生きするんだ。」ということに気付いてもらうことが大切です。

**Q4** 施設のスタッフの人数が少なく、十分な活動を保障してあげることができなくて困っています。何かいい手立てはないでしょうか？

**A4** 大学生や高校生のボランティアを募集するといいです。ただし、その際は、事前の研修をしっかりと行い、学生であっても職員と変わらない対応ができるよう配慮する必要があります。





特別事業

「幼児期にふさわしい体験プログラムの発信・活用について」

企画委員会

委員	富山県砺波青少年自然の家	社会教育主事	西田 誠
	信州大学	理事・副学長	平野 吉直
	堀川幼稚園	教諭	横山 朋子
	富山県民間保育連盟	顧問	柳溪 暁秀
	富山大学人間発達科学部	准教授	若山 育代

(五十音順)

 **国立立山青少年自然の家**

〒930-1407 富山県中新川郡立山町芦峯寺字前谷 1  
TEL: 076-481-1321 URL: <http://tateyama.niye.go.jp/>  
担当: 小泉 滋、田中 則人

 **国立妙高青少年自然の家**

〒949-2235 新潟県妙高市関山6323-2  
TEL: 0255-82-4321 URL: <http://myoko.niye.go.jp/>  
担当: 蟹江 真耶、東 千香子、米村 貴

 **国立能登青少年交流の家**

〒925-8530 石川県羽咋市柴垣町14-5-6  
TEL: 0767-22-3121 URL: <http://noto.niye.go.jp/>  
担当: 伊藤 緑、西 裕之



National Institution For Youth Education  
独立行政法人 **国立青少年教育振興機構**